

# 本を活用した居場所づくりを実践して、生徒が安心して過ごせる学校図書館になった事例

**学校名** 小鹿野町立小鹿野中学校

**所在地** 秩父郡小鹿野町小鹿野146

**電話** 0494-75-0009

## 1 本校の概要

本校は「もとをつくる」を校訓に掲げ、「誇り高く・志高く・たくましく」を教育目標としている。生徒 226 名が、地域に誇れる明るく楽しい学校を目指して、日々学びあい成長している。

## 2 本校の実践

### (1) 実践の視点

- ・ b 各教科等における学習に結び付けた取組
- ・ e 学校図書館等の環境整備の工夫

### (2) 実践の概要

ア 各教科における学習に結び付いた取組

- ・ 「人権月間」テーマ展示

廊下に設置された人権コーナーにて、人権に関する本を展示、気になる本は貸出も可能とした。



- ・ 「進路指導・キャリア教育コーナー」  
生徒の進路決定のために有効な本や勉強に関する解説本等の展示を、約1ヶ月に一度のペースで更新しながら展示している。
- ・ 絵本の読み聞かせ講座  
家庭科の「幼児の生活と家族」の中で、図書支援員が読み聞かせ講座を行った。



- ・ 教材の世界観に触れ学びを深める  
国語科の学びを深めるため、戦時中の食べ物や生活についての本や関連する調べ学習の生徒作品も展示した。

### イ 学校図書館等の環境整備の工夫

- ・ 生徒の「居場所」作り  
本を読む、読まないにかかわらず生徒の「居場所」となりうる落ち着いた雰囲気づくりを行っている。(折り紙、パズル、ぬいぐるみ等の設置)
- ・ 授業で取り組んだ調べ学習の成果物の展示  
文化祭の時期に、生徒が取り組んできた成果物を図書室内に展示した。これは、成果物への関心を集めるとともに、学校図書館が調べ学習の場であることをアピールする目的で行っている。



## 3 成果と今後の課題

### (1) 成果

- ・ 図書室の本を廊下等に展示することで、図書室に向かなくても本が読める環境が生まれ、生徒自身ではなかなか選びにくい本も借りられるようになった。また、絵本の読み聞かせを通して、幼児とのふれあい方、読み聞かせの方法、読み聞かせに向く絵本の選び方を学ぶことができた。
- ・ 授業の合間の休憩や教室に入りづらい生徒の居場所としての機能をもつことで、生徒が登校するきっかけとなるケースもあった。また、成果物の展示により「読書センター」の機能と共に「学習センター」であることが周知され、資料を授業で利用する頻度が増加した。

### (2) 課題

- ・ 学校図書館をより活用してもらうため、図書室だより等で新刊情報を発信すると共に新しい教科書に合わせた関連図書購入も必須である。
- ・ 図書室内で調べ学習が気軽に行える資料の充実を目指していく。

### (3) おわりに

誰にでも「居場所」となる学校図書館を目指し、今後も生徒に有益な読書・学習活動を支援するため尽力していきたい。